

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : Gent's マルチギヤオイル 80W-90 GL-5
製品コード : 29-G-07
推奨用途及び使用上の制限 : 自動車用ギヤ油
供給者の会社名称 : 株式会社CAPスタイル
供給者の住所 : 東京都大田区大森北1-11-5共和七番館6F
供給者の電話番号 : 050(3066)0388
供給者のファックス番号 : 03(3298)7104
緊急連絡先電話番号 : 050(3066)0388

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性 : GHS分類基準に該当しない
健康に対する有害性 : GHS分類基準に該当しない
環境に対する有害性 : GHS分類基準に該当しない
水生環境有害性 短期(急性) : 区分 3
水生環境有害性 長期(慢性) : 区分 3
GHSラベル要素
シンボル : なし
注意喚起語 : なし
危険有害性情報 : H402 水生生物に有害
H412 長期継続的影響により水生生物に有害
注意書き
【安全対策】 : P273 環境への放出を避けること。
【応急措置】 : なし
【保管】 : なし
【廃棄】 : P501 内容物及び容器を国際/国/都道府県及び市町村の規則に従って廃棄すること。
具体的には、都道府県知事等の許可を受けた専門の廃棄処理業者に業務委託すること。

※GHS分類による上記注意書きの記載以外でも、以降の情報を参考に安全対策/応急措置/保管/廃棄に対して十分な配慮を行ってください。

注) 上記のGHS分類で区分の記載がない項目については、国連GHS勧告で規定された「区分に該当しない」または「分類できない」に該当する。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成及び成分情報	組成	Cas No.	化審法官報整理番号	含有量 (mass %)
	石油系炭化水素 *1)	非開示	-	55-65
	石油系炭化水素 *2)	非開示	-	30-40
	潤滑油添加剤 *2)	(混合物)	-	2-8

危険有害成分 (組成分に含まれる 危険有害成分)	成分	Cas No.	政令番号	含有量 (mass %)
	鉱油 *1)	非開示	第57条 別表第9の168	55-65
	*2)	非開示	第57条 別表第9の168	30-40
	鉱油 *2)	-	第57条 別表第9の168	<5

4. 応急措置

- 吸入した場合 1 新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。
2 体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、気分が悪い時は直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 1 直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸水で洗う。
2 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
- 眼に入った場合 1 清浄な水で数分間注意深く洗う。
2 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。
3 その後も洗浄を続け、最低15分間洗浄した後、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 1 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。
2 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂が有効である。
使ってはならない消火剤 : 棒状水の使用は、火災の拡大を引き起こすことがある。
特有の危険有害性 : 火災によっては、刺激性のガスが発生することがある。
特定の消化方法 1 火元への燃焼源を絶つ。
2 周囲の設備等に散水して冷却する。
3 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 1 消火作業の際は、風上から保護具を着用して行う。皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。
2 必要時は適切な空気呼吸器と防護服を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 作業の際には、保護具を着用する。
環境に対する注意事項 1 土、砂、砂袋その他適切な方法で漏洩の広がりを防ぎ側溝、下水道、河川へ流出しないよう注意する。
2 海上では、漏洩の拡大を防ぐため、オイルフェンスを張り、吸収マット又は適切な資材に吸収させる。
- 封じ込め及び浄化の方法 1 危険領域から人を退避させる。

安全データシート

- 及び資材 2 危険領域にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。
3 少量流出の場合、漏洩物を土、砂、砂袋、ウェスその他適切な物に吸収させ回収する。
4 大量流出の場合、盛土で囲み漏洩の広がりを防ぎ、可能な限り空容器に回収する。
- 二次災害の防止策 1 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。
2 付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。
3 漏洩物を完全に除去し、漏洩場所と周辺の換気及び浄化を行う。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 技術的対策 1 取り扱い時は適切な保護具を着用する。
2 皮膚との接触を避ける。
3 眼との接触を避ける。
4 屋内での取り扱い時は適切な換気下で行う。
5 蒸気、ミストが拡散する場合は密閉系で、局所排気システムその他適切な装置を設置する。
- 注意事項 : 指定数量以上を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。
- 安全取り扱い注意事項 1 容器開封時は手の怪我を防ぐため手袋を着用する。
2 容器から取り出す時はポンプなどを使用する。細管を用いて口で吸い上げない。飲み込まない。
3 ミストが発生する時は、呼吸器具を使用してミストを吸入しない。
4 容器を倒したり、落としたり、ショックを与えたり、引きずったりしない。
- 接触回避 1 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。
2 火花、炎、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。
- 衛生対策 1 取り扱い後は手と顔をよく洗う。
2 作業中は飲食、喫煙をしない。
- 保管
- 保管条件 1 直射日光を避け、涼しく換気され、乾燥した場所に保管する。
2 発火源の可能性のあるもの、高温物体を避ける。
3 使用後は容器を密栓し、ゴミ、水分の混入を防ぐ。
- 注意事項 : 空容器は可燃性の製品残留物を含んでいる可能性がある。洗浄前に溶接、ハンダ付け、穴あけ、切断等してはならない。

8. 暴露防止及び保護措置

- 設備対策 1 ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
2 取扱い場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度 1 規定なし (作業環境評価基準：労働省告示第26号、平成7年3月27日)
- 許容濃度 1 日本産業衛生学会(2010年度版) : 時間荷重平均 3mg/m³ (鉱油ミスト)
2 ACGIH (2010年度版) : 時間荷重平均 5mg/m³ (鉱油ミスト)
- 保護器材
- 呼吸器用保護具 : 通常必要でないが、必要に応じて防毒マスク (有機ガス用) を着用する。
- 手の保護具 : 長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。
- 眼の保護具 : 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。
- 皮膚及び身体の保護具 : 長期間にわたり、繰り返し取扱う場合には耐油性の長袖作業着を着用する。
- 衛生対策 1 汚れた衣服は脱ぎ、最使用する場合はよく洗う。
2 取り扱い後は手を十分に洗う。

9. 物理的及び化学的性質

- 物理状態 : 液体
- 色 : 褐色
- 臭い : 石油臭
- 臭いの閾値 : データなし
- pH : データなし
- 沸点又は初留点 : データなし
- 沸点範囲 : データなし
- 流動点 : -35.0 °C JIS K 2269
- 引火点 : 230 °C JIS K 2265-4 (COC)
- 自然発火点 : データなし
- 分解温度 : データなし
- 爆発範囲の上限 : データなし
- 爆発範囲の下限 : データなし
- 蒸気圧 : データなし
- 蒸気密度 : データなし
- 密度 (15°C) : 0.89 g/cm³ JIS K 2249
- 動粘度 (40°C) : 130 mm²/s JIS K 2283
- 水に対する溶解度 : 不溶

10. 安定性及び反応性

- 反応性 : 通常の取り扱い条件下では反応しない。
- 化学的安定性 : 常温・常圧で安定である。
- 危険有害反応可能性 : 強酸化剤との接触を避ける。
- 避けるべき条件 1 混触危険物質との接触。
2 長時間の加熱、裸火、着火源。
- 混触危険物質 : ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
- 危険有害な分解生成物 : 燃焼時、一酸化炭素等が生成される可能性がある。

11. 有害性情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

製品

安全データシート

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

成分	急性毒性	: 分類できない。
	皮膚腐食性/皮膚刺激性	: 分類できない。
	眼に対する重篤な損傷性	: 分類できない。
	又は刺激性	
	呼吸器感作性	: 分類できない。
	皮膚感作性	: 分類できない。
	生殖細胞変異原性	: 分類できない。
	発がん性	: 分類できない。
	生殖毒性	: 分類できない。
	特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 分類できない。
	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 分類できない。
	誤えん有害性	: 40℃の動粘性率が20.5mm ² /s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。
成分 (石油系炭化水素)	急性毒性 (経口)	: ラットLD50 5000mg/kg以上
	急性毒性 (経皮)	: ラットLD50 5000mg/kg以上
	急性毒性 (吸入)	: ラット吸入(ミスト) LC50 (4h) 5mg/L以上
	眼に対する重篤な損傷性	: ウサギによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。
	又は刺激性	
	呼吸器感作性	: 分類されない。
	皮膚感作性	: モルモットを用いた複数の試験 (ビューラーテスト) において、いずれも感作性なしとの結果が得られている。
	生殖細胞変異原性	: AMES試験においてMutagenicityIndex (MI) 値が0.0との報告がある。 広範囲な変異原性試験 (in vivo及び in vitro) が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。
発がん性		: IARCでは、高度精製油はグループ3(人に対する発がん性について分類できない) に分類され、ACGIHの提案もほぼ同様の分類と言える。EUによる評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。
		各種動物への皮膚暴露試験から得られた知見により発がん性はなしと判断されている。
生殖毒性		: ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。
		: 急性試験による各種特定臓器への単回暴露毒性は認められていない。
特定標的臓器毒性 (単回暴露)		
	特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 経皮及び吸入投与による4週間から2年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。
成分 (潤滑油添加剤)	誤えん有害性	: 40℃の動粘性率が20.5mm ² /s以下の炭化水素に該当しないため分類されない。
	侵入経路	: 皮膚、眼、飲み込んだ場合、および 吸入した場合。
標的器官		: 次に挙げる器官に傷害を引き起こすことがある物質を含有している: 消化器管、上部気道、目。
	急性作用	
	吸入した場合	: 加熱によって生じる蒸気、気化物質を吸い込むと呼吸器に刺激を与える可能性がある。
	飲み込んだ場合	: 摂取により、胃腸の炎症および下痢を起こすことがある。
皮膚に付着した場合		: 皮膚に対し無刺激性。本製品又は類似製品の試験結果に基づく。
		皮膚に対する感作性はない。この製品に存在する濃度と同等以上の濃度で試験された皮膚感査物質のデータに基づく。
目に入った場合		: 目を刺激する。本製品又は類似製品の試験結果に基づく。
	悪影響	: 未確定。
発がん性作用		: IARC、NTP、OSHA、EU および ACGIHのいずれにおいても、分類あるいはリストに記載されていない。
	毒性データ	

成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
Olefin sulfide (製品中の含有量: 0.2-0.5%)	LD50 皮膚	ウサギ	2000 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	8600 mg/kg	-
Alkyl phosphate (製品中の含有量: 0.2-0.5%)	LD50 皮膚	ウサギ	>2000 mg/kg	-
	LD50 経口	ラット	>3000 mg/kg	-
Long-chain alkyl amine (製品中の含有量: <0.3%)	LD50 皮膚	ウサギ	251 mg/kg	-
	LC50 経口	ラット	612 mg/kg	-
鉱油 (製品中の含有量: 0.2-0.5%)	LD50 吸入した場合	ラット	157 ppm	4 時間
	ガス			-
Alkyl dithio thiadiazole (製品中の含有量: <0.3%)	LD50 皮膚	ウサギ	>5000 mg/kg	-
	LC50 経口	ラット	>5000 mg/kg	-
Long-chain alkenyl amine (製品中の含有量: <0.3%)	LD50 吸入した場合	ラット	>2.18 mg/l	4 時間
	蒸気			-
Long-chain alkenyl amine (製品中の含有量: <0.3%)	LD50 皮膚	ウサギ	>2000 mg/kg	-
	LC50 経口	ラット	>10000 mg/kg	-
その他の情報	LD50 吸入した場合	ラット	>2.75 mg/l	4 時間
	蒸気			-
	LD50 経口	ラット	1689 mg/kg	-
				-

12. 環境影響情報

(得られた情報は個々の成分の安全データシートのデータに基づく)

製品

混合物のために、危険有害性区分は、混合物の分類基準に基づき分類した。

安全データシート

生態毒性	: 分類できない。
残留性・分解性	: 分類できない。
生体蓄積性	: 分類できない。
土壤中の移動性	: 分類できない。
オゾン層への有害性	: 分類できない。
他の有害影響	: 分類できない。
成分 (石油系炭化水素)	
生態毒性	
急性毒性	: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。 魚類 (ファットヘッドミノ 96時間) LL50 100mg/L以上 甲殻類 (オオミジンコ 48時間) EL50/NOEL 10,000mg/L以上 藻類 (セレナストルム) NOEL 100mg/L以上 難水溶性のため上記試験においては調整されたWAF (水適応性画分) を試料として使用している。 上記試験結果から水生環境急性有害性なしと判断する。
慢性毒性	: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。 魚類 (ファットヘッドミノ 14日間) NOEL 100mg/L以上 甲殻類 (オオミジンコ 21日間) NOEL 10mg/L以上 微生物の発光試験 (4日間) による発光の抑制は確認されなかった。 難水溶性のため、上記試験においては調整されたWAF (水適応性画分) を試料として使用している。 (水適応性画分) を試料として使用している。 上記試験結果から水生環境慢性有害性なしと判断する。
残留性・分解性	: 生分解試験結果は31% (28日間) であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。
生体蓄積性	: 有用な情報なし。
土壤中の移動性	: 類似基油のlog KOCは3以上と推測され、地表で漏出した油は土壤に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。
オゾン層への有害性	: 有用な情報なし。
他の有害影響	: 微生物の発光試験 (4日間) による発光の抑制は確認されなかった。
成分 (潤滑油添加剤)	
環境有害性	: 水生生物に対して有毒。水性環境中で長期の悪影響を与えることがある。 本製品又は類似製品の試験結果に基づく。
環境に与える影響	: 本製品は環境中に残留する可能性のある成分を含有する。

13. 廃棄上の注意

- | | |
|----------|--|
| 残油廃棄物 | 1 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則にしたがって廃棄すること。
2 投棄禁止。
3 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは、地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 |
| 汚染容器及び包装 | : 空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。 |

14. 輸送上の注意

- | | |
|--|---|
| 国際規制 | |
| 国連分類 | : 国連の分類基準に該当しない。 |
| 国内規制 | |
| 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規則に従った容器、積載方法により輸送する。 | |
| 陸上輸送 | 消 防 法 : 危険物 第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性)
容 器 : 危険物の規制に関する規則別表第3の2に定めた適合品を使用する。
(注) 容器は、危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第68条の5に定める容器試験基準に適合していることを確認すること。
容器表示 : 一 危険物の品名 第4石油類 危険等級Ⅲ 潤滑油
二 数量
三 火気厳禁
表示対象物 (労働安全衛生法) |
| 海上輸送 | |
| 船舶安全法 | : 非危険物 (個別運送及びバラ積み運送に於いて) |
| 航空輸送 | |
| 航空法 | : 非危険物 |
| 輸送の特定の安全対策及び条件 | : 容器が著しく摩擦または動揺を起こさないように運搬する。 |

15. 適用法令

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 国内法規と規則 | |
| 消防法 | : 危険物 第4類 引火性液体 第4石油類 危険等級Ⅲ (非水溶性) |
| 労働安全衛生法 | : 表示対象物、通知対象物 |
| 化管法 (PRTR法) | : 非該当 |
| 毒物及び劇物取締法 | : 非該当 |
| 水質汚濁防止法 | : 油分排出規制 |
| 下水道法 | : 鉱油類排出規制 |
| 海洋汚染防止法 | : 油分排出規制 |
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | : 産業廃棄物規制 |

16. その他の情報

(引用文献)

安全データシート

化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂6版（2015年）
GHSに基づく化学品の分類方法（JIS Z 7252-2019）
GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート
（JIS Z 7253-2019）
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 GHS関連情報
安全衛生情報センター「GHS対応モデルラベル・モデルSDS情報」
2018 許容濃度の勧告（日本産業衛生学会）
その他文献調査によって得られた情報

安全データシートは、提供した製品の安全な取扱いを確保するための参考情報として提供されるものです。取扱者はこれを参考とし、自らの責任において個々の取り扱いの実態に合わせた処置を講ずることが必要であり、これを理解した上で活用してください。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。